



shaping tomorrow with you

FUJITSU Software

エンタープライズ サービス カタログ マネージャー

Enterprise Service Catalog

Manager V16.0.0

機能ご紹介

2016年5月

富士通株式会社

目次

■ 製品概要

- 背景と課題
- 課題解決へのアプローチ
- Enterprise Service Catalog Managerとは
- 製品の特長

■ 導入効果

■ 機能説明

- 主要機能
- ServerView Resource Orchestrator連携機能
- 機能概要

■ 製品情報

- システム構成
- 動作環境
- 関連ソフトウェア

製品概要

- 背景と課題
- 課題解決へのアプローチ
- Enterprise Service Catalog Managerとは
- 製品の特長

企業内 情シス部門の課題

課題1

企業内の業務アプリケーションを複数の部署が作成する際に、同じような運用機能[※]を多重開発している。

※ 運用機能: 利用者の管理、利用時の認証・認可、利用状況の把握など

課題2

パートナー企業や関係会社が業務アプリケーションを利用する際に、使用量に応じて費用を徴収したい。

課題3

利用状況の参照などの管理機能が業務アプリケーションごとに異なっており、運用者の管理負荷が増大している。

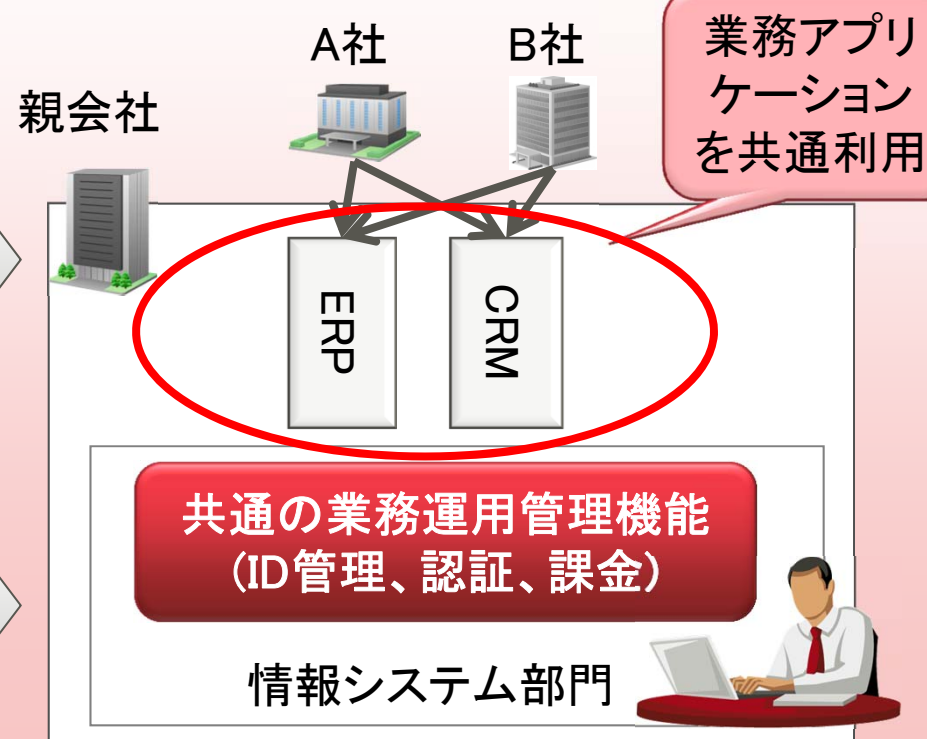
課題解決に向けた要件とアプローチ

同じような運用機能の
多重開発の排除

使用量に応じた
費用負担の明確化

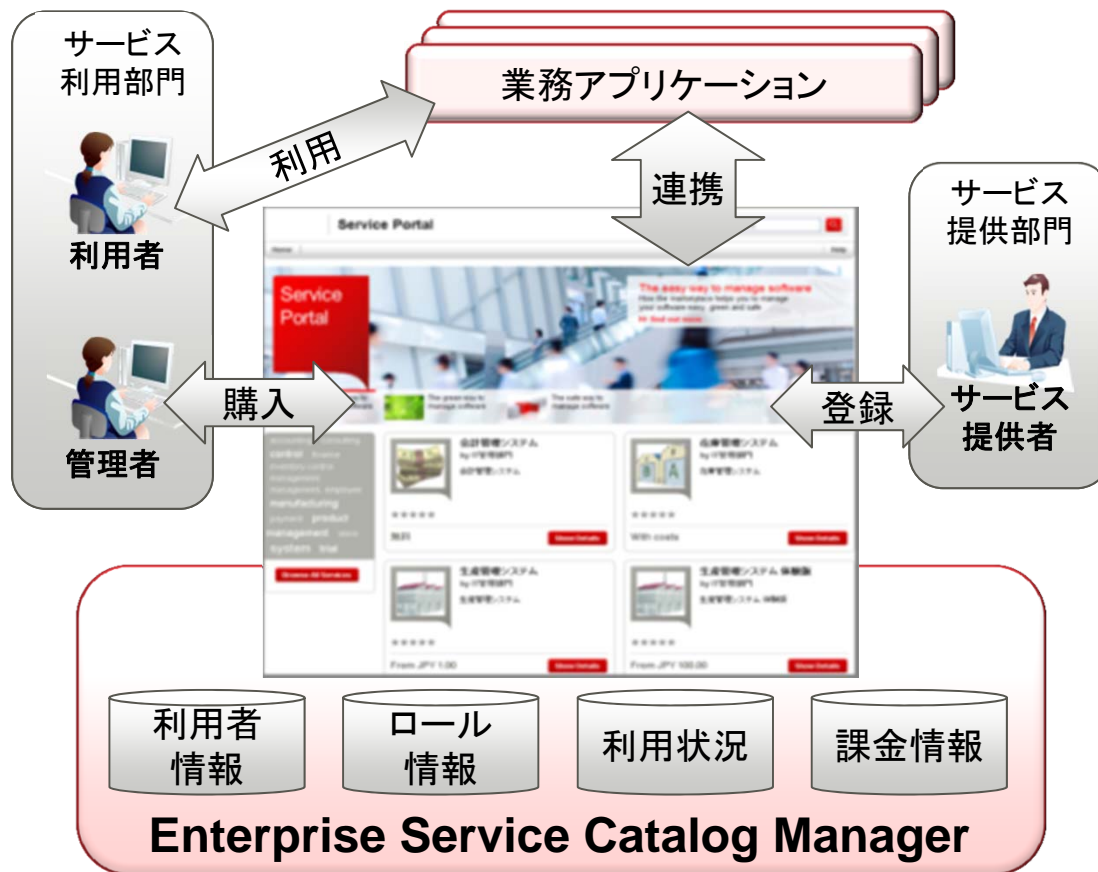
業務アプリごとに異なる
管理機能の一元化

- 業務アプリを一括して管理し運用を統一
- 課金や利用状況をタイムリーに把握



Enterprise Service Catalog Managerとは

企業内SaaSを提供する際に必要となる
業務アプリケーションの運用機能を提供する製品



業務アプリケーションを
サービス化し、運用するため
に必要な機能をAll-in-oneで
提供

定額課金/使用回数に応じた
従量課金など様々な利用料
計算が可能な課金機能

利用者が利用できる業務を
一覧化する企業内サービス
一元管理

業務アプリケーションを SaaS化するための運用機能セットを提供

- 業務アプリケーションをSaaS化するための運用機能セット(ID管理、認証、課金など)を提供し、開発・提供期間を短縮
- 利用料集計機能を提供し、パートナー企業や関係会社ごとの費用負担を明確化
- 複数の業務アプリケーションの一元管理するための機能(利用状況確認や利用者情報など)を提供し、業務運用作業を軽減

導入効果

導入効果：業務アプリケーション提供期間短縮



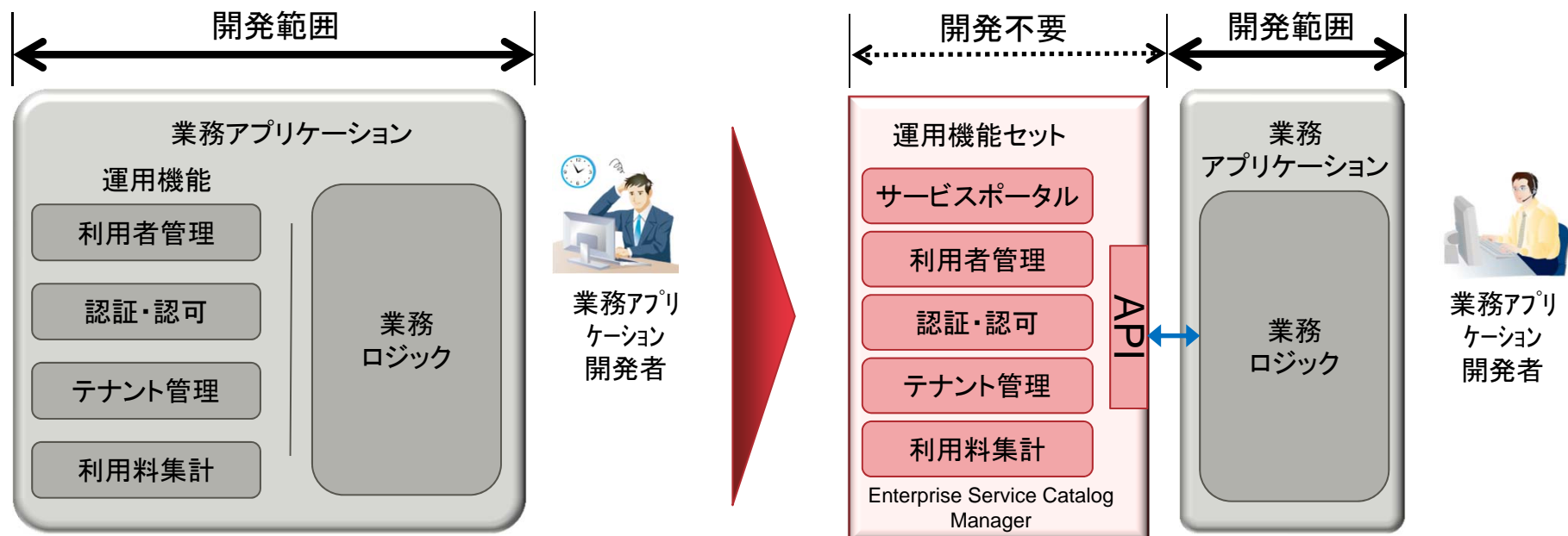
運用機能セットの利用による開発・提供期間短縮

従来

- 業務アプリケーションを開発する際に、業務ロジックに加えて運用機能の作りこみが必要
 - 利用者管理、認証・認可、他
- 業務アプリケーションごとに運用機能を多重開発

導入後

- 業務アプリケーション開発者は業務ロジック部分の開発に集中できる
- 業務アプリケーションの短期開発・提供が可能

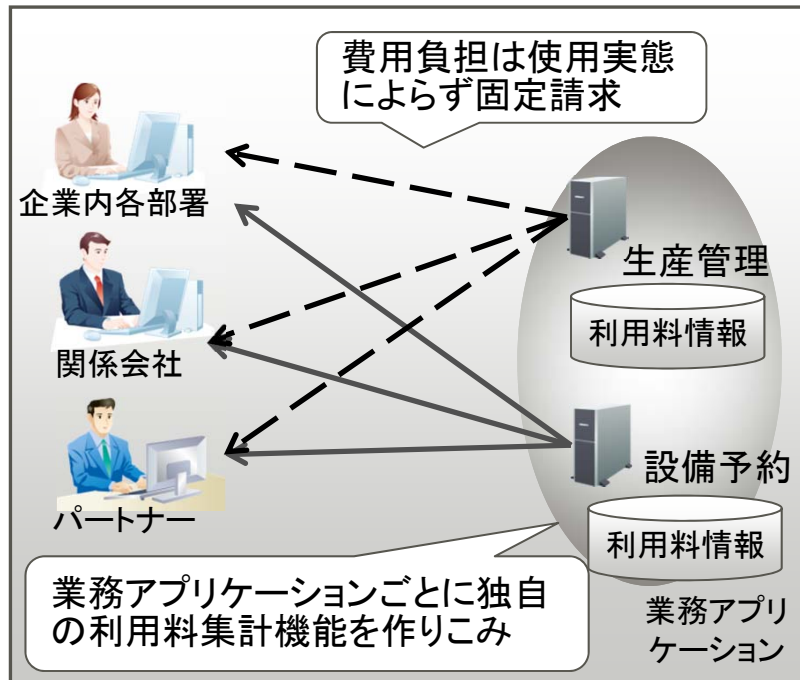


導入効果：関係会社への費用明確化

利用料集計により関係会社への費用負担を明確化

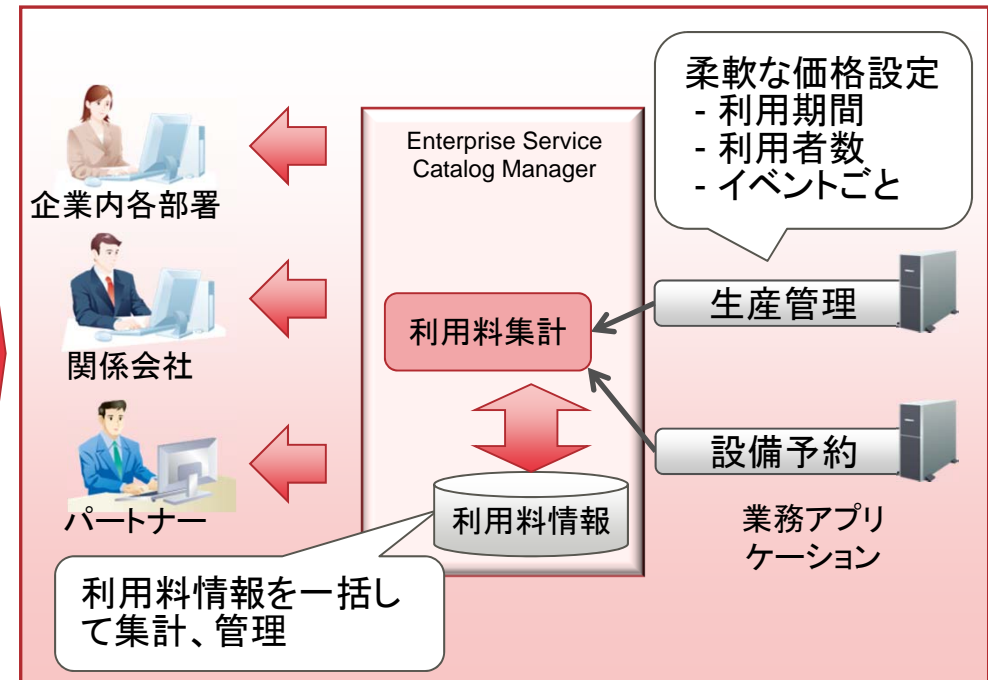
従来

- 使用実態によらず、固定請求
- 業務アプリケーションごとに利用料集計機能の作りこみが必要
- 利用料集計方法や見え方が業務アプリケーションごとに異なる



導入後

- サービスの使用量に応じて費用負担を依頼できる
- 業務アプリケーションの特性に応じた価格設定が可能
- 利用料の集計を統一

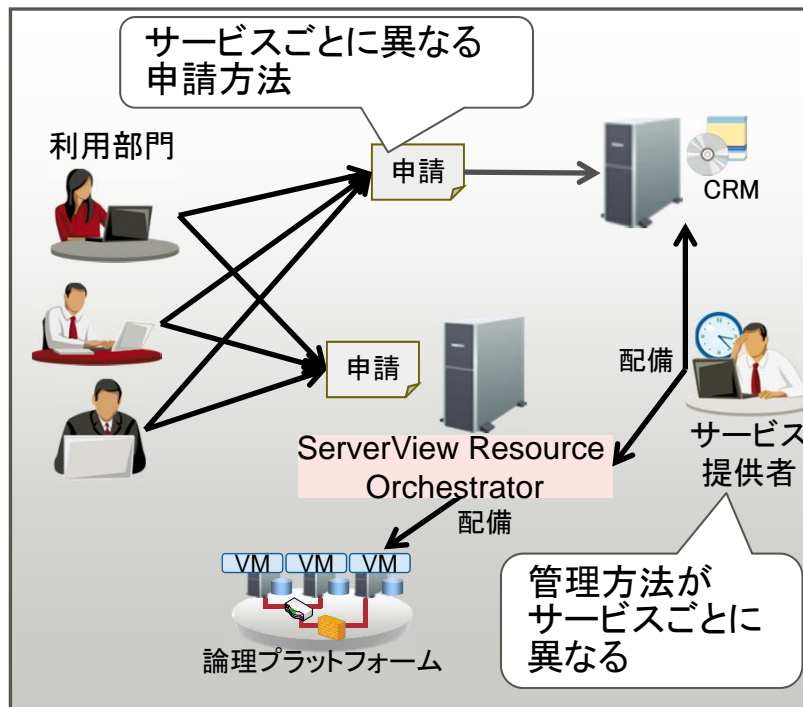


導入効果: 企業内のサービス提供に関わる負担を軽減 **FUJITSU**

企業内に散在するサービスを一元的に管理

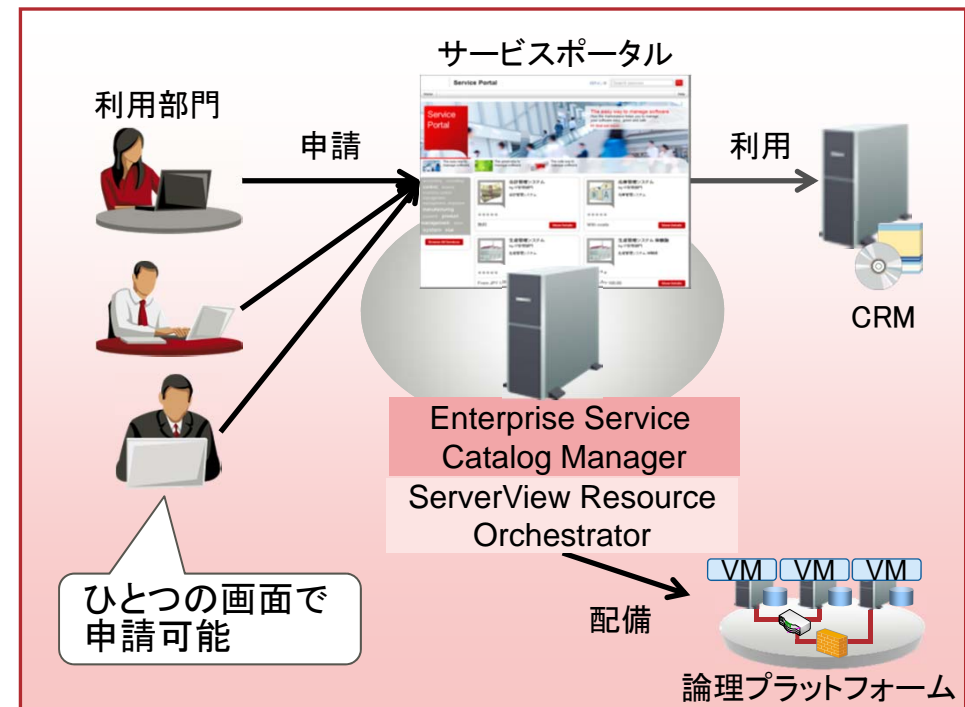
従来

- 利用部門は、サービス毎に手順、申請方法を覚える必要がある
- サービス提供者はサービスごとに管理方法が異なる



導入後

- 利用者は統一された手順、申請方法でサービスを利用できる。
- サービスポータル開発の負荷の低減と、サービス提供までのリードタイムを短縮



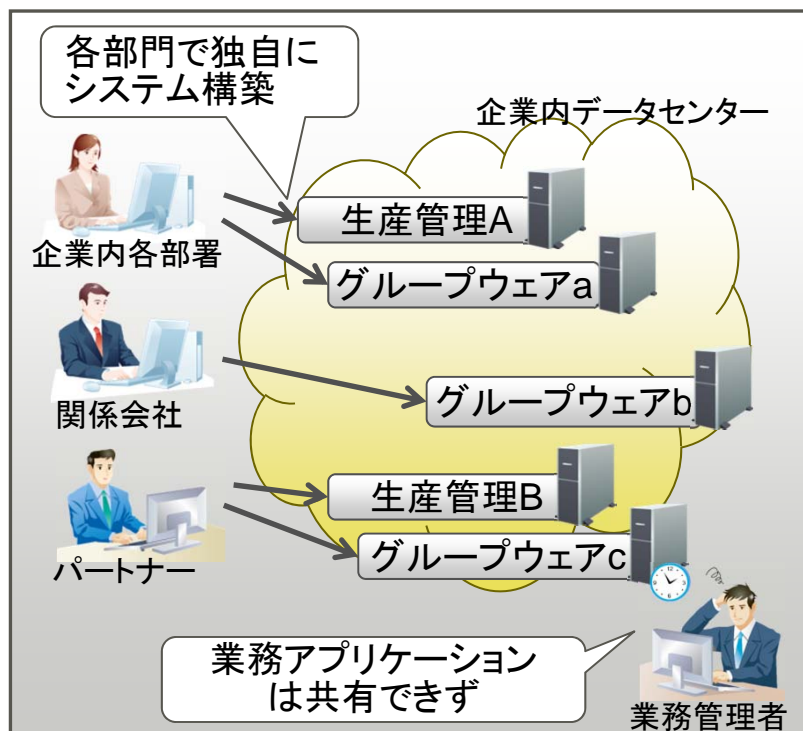
※ 論理プラットフォームとはFUJITSU Software ServerView Resource Orchestrator で管理する業務システムの一単位です

導入効果：業務アプリケーションの集約

乱立している業務アプリケーションを整理・統合

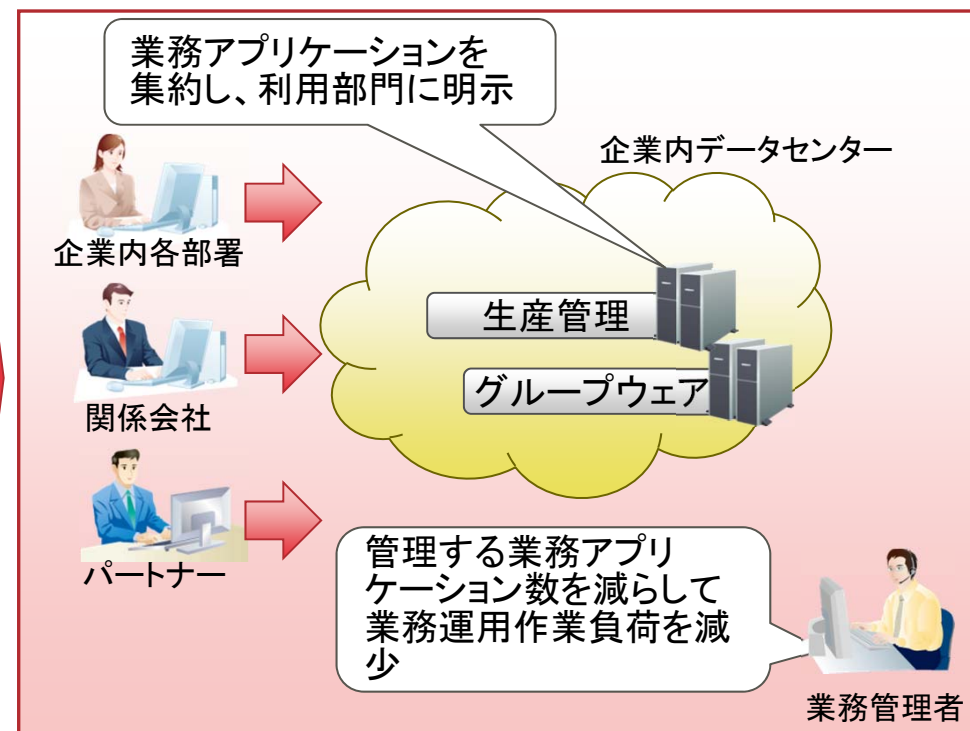
従来

- 企業内データセンターでサーバを集約できたが、業務アプリケーションは従来通り独自にシステムを構築



導入後

- 業務アプリケーションを共通利用
- 業務アプリケーション数を削減でき、運用管理負荷を軽減



機能説明

- 主要機能
- ServerView Resource Orchestrator連携機能
- 機能概要

■ 運用機能セット

業務アプリケーションのSaaS化に必要な運用機能セットを提供

■ 柔軟な価格モデル

- ・ 業務アプリケーションの特性に合わせた柔軟な価格設定が可能

■ 利用料集計機能

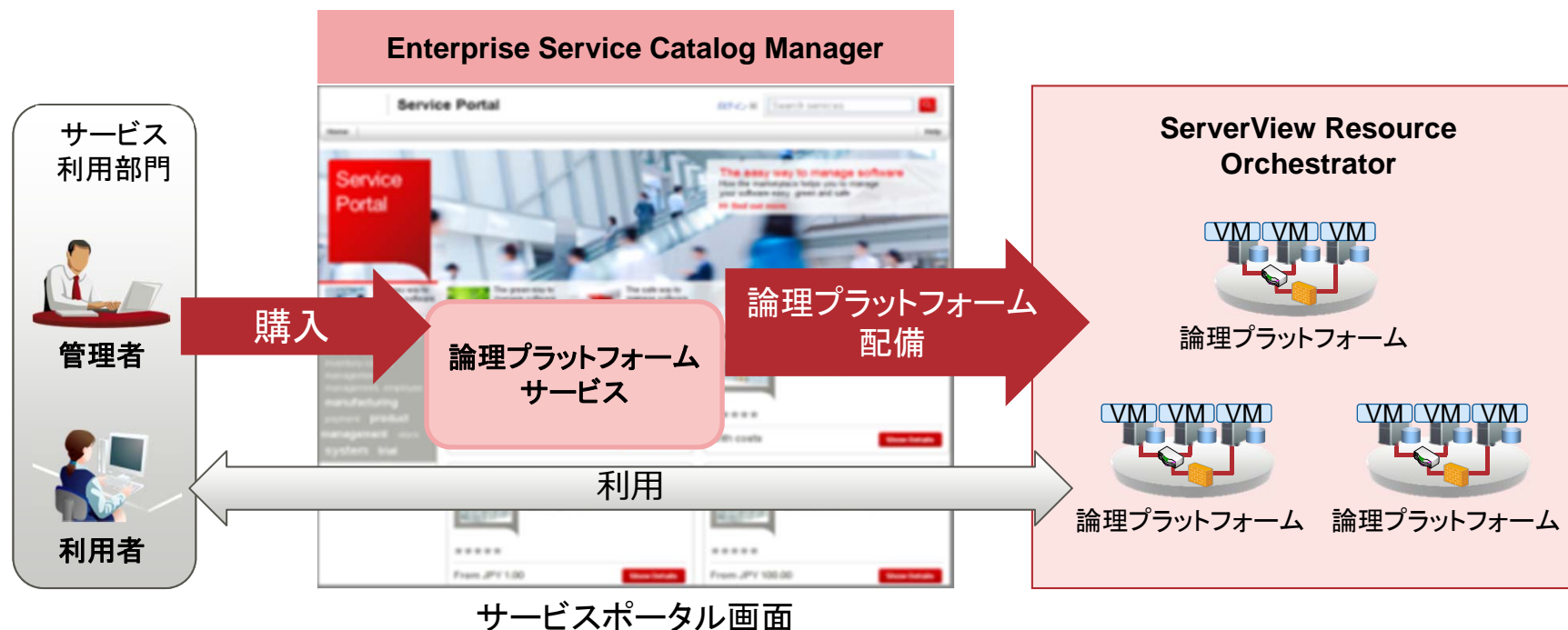
- ・ テナントごとの利用料集計が可能

■ 業務サービス一元管理

- ・ 業務アプリケーション/インフラ登録や、利用状況見える化などの運用機能
- ・ 業務アプリケーション/インフラを一覧にして公開
- ・ テナントごとに必要な業務に応じて、一覧で公開する業務サービスを絞り込み可能

サービスポータルを通じ、簡単に論理プラットフォームを配備/解約

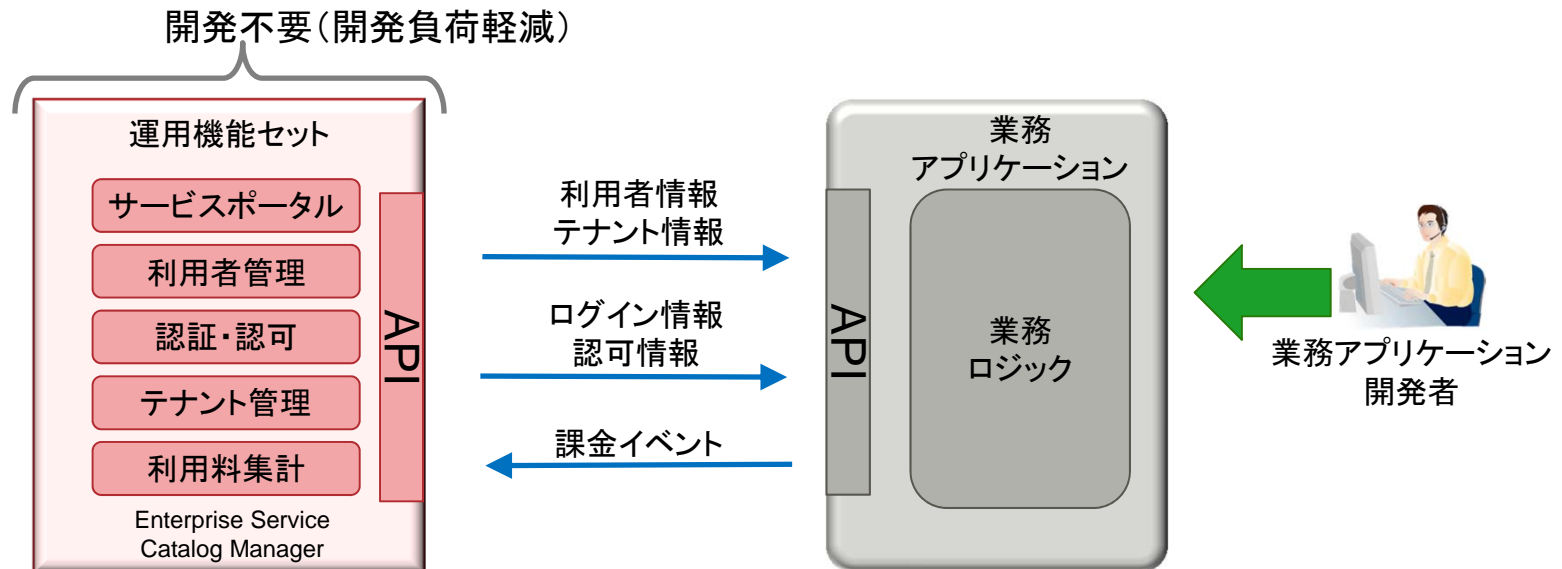
- ServerView Resource Orchestratorと連携し、サービスポータルを通じて3ステップ※で論理プラットフォームを配備/解約、論理サーバ(仮想サーバ)を利用できます
※購入するサービスの選択、サービス設定の入力および購入内容の確認
- 基本的な運用操作(サーバ追加、CPU数変更、起動/停止)を、サービスポータルからシームレスに実行可能です。



※ 論理プラットフォームとはFUJITSU Software ServerView Resource Orchestratorで管理する業務システムの一単位です

業務アプリケーション開発を効率化する運用機能セット

- 業務アプリケーションをSaaS化するための開発では、業務ロジックの開発以外に、業務の運用機能(利用者管理、認証・認可、テナント管理など)の開発が必要となります。
- 本製品は、業務アプリケーションをSaaS提供する際に必要な運用機能をオールインワン(運用機能セット)で提供し、業務アプリケーションがAPIに対応することにより開発・提供期間の短縮を可能にします。

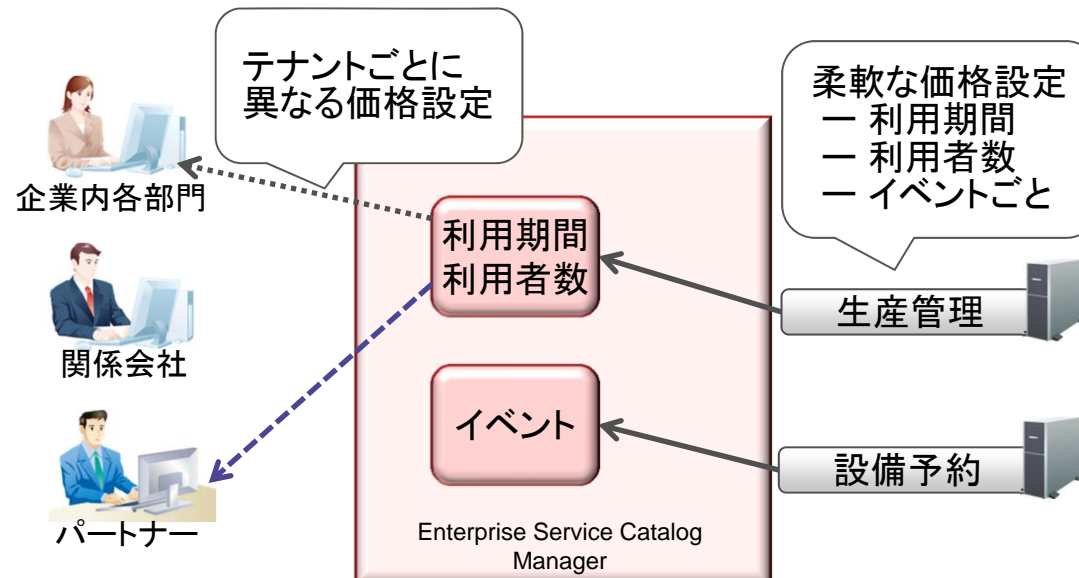


業務アプリケーションの特性に合わせた柔軟な価格設定

- 業務アプリケーションごとに柔軟な価格設定が行えます。以下の価格モデルが選択でき、テナントごとに異なる価格設定も可能です。

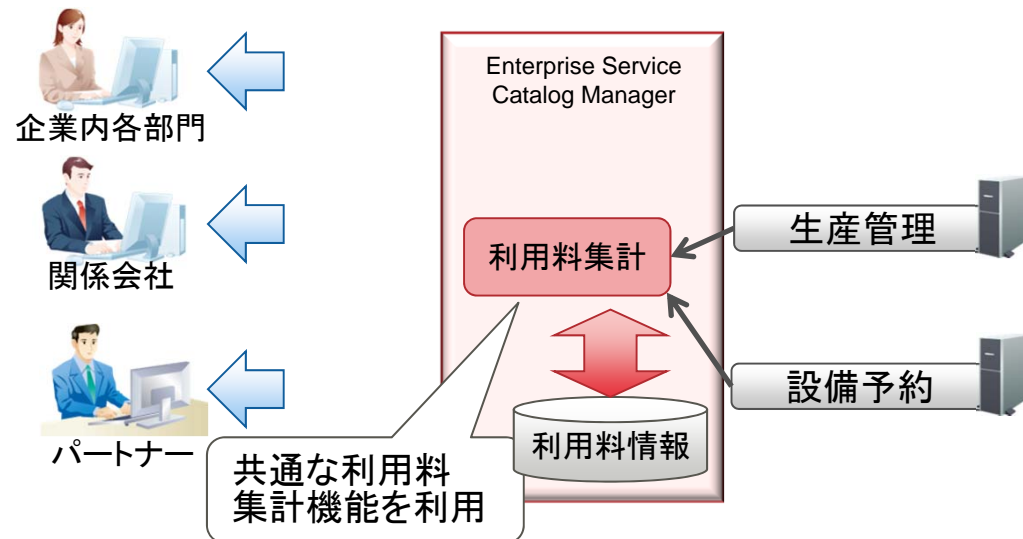
- 利用期間に応じた価格設定（月、週、日、時間単位で設定可能）
- 利用者数に応じた価格設定
- 業務アプリケーションで発生するイベントに応じた価格設定

例：設備予約アプリケーションにて、設備予約（イベント）ごとに異なる価格を設定



テナントごとの利用料集計が可能

- 利用料はテナントごとに集計できます。イベントに応じた価格設定を行った場合は、どの利用者がどれだけイベントを発生させたかも集計できます。
- 利用料金集計結果は画面表示・PDF・WORDやEXCEL出力のほか、XML形式で出力し課金請求システムと連携することが可能です。



企業内サービス見える化、利用状況見える化

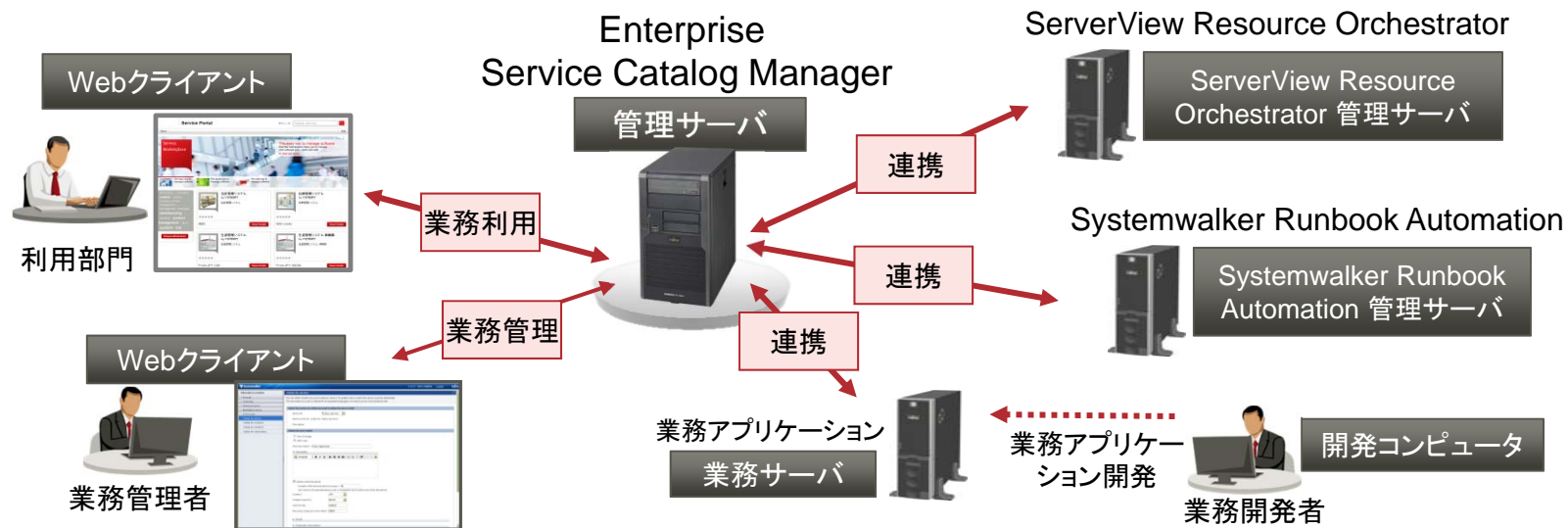
- 業務アプリケーション/インフラのポータル登録、利用状況見える化などの運用機能を提供します。
 - テナントごとのポータルにより、テナントごとに必要なサービスのみ公開できます。
 - ポータルの表示言語について、標準提供(日本語、英語、ドイツ語)以外の言語を追加することも可能です。



製品情報

- システム構成
- 動作環境
- 関連ソフトウェア

システム構成



■管理サーバ

業務アプリケーションをSaaS上のサービスとして公開し管理するサーバです。Enterprise Service Catalog Managerが動作します。ServerView Resource Orchestratorの管理サーバと同居構成にすることも、別のサーバにすることも可能です。

■業務サーバ

業務アプリケーションが動作するサーバです。業務アプリケーションはWebサービスインターフェースを実装するのみで良く、動作プラットフォームについては限定されません。

■開発コンピュータ

業務アプリケーションを開発するためのコンピュータです。開発の形態は特に限定されません。

■Webクライアント

Enterprise Service Catalog Managerの利用部門向けの利用可能サービス一覧や、利用申請、ユーザー管理が行えます。また業務管理者向けには業務アプリケーションの登録や、利用料確認、利用状況確認が行えます。

■ServerView Resource Orchestrator 管理サーバ

仮想サーバ群を配備する際に連携するServerView Resource Orchestratorの管理サーバです。

■Systemwalker Runbook Automation管理サーバ

自動運用プロセスを操作する際に連携するSystemwalker Runbook Automationの管理サーバです。

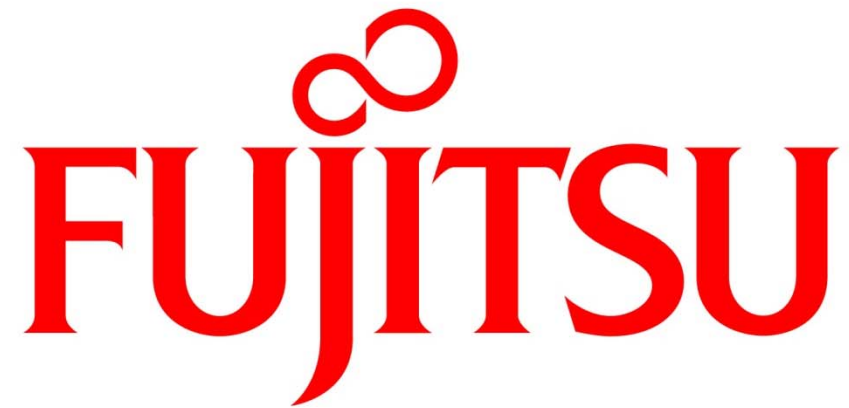
◆ Enterprise Service Catalog Manager V16.0.0の動作環境は以下の通りです。

種類/用途	動作OS／環境
管理サーバ	Microsoft Windows Server 2008 R2 Microsoft Windows Server 2012 Microsoft Windows Server 2012 R2
Webクライアント	Windows Internet Explorer 9 -11 Mozilla(R) Firefox(R) 31.0 - 38.0 Google Chrome 42.0 - 43.0
仮想化ソフトウェア	VMware vSphere ESX 4.0 VMware vSphere ESX 4.1/ESXi 4.1 VMware vSphere ESXi 5.0/5.1/5.5 VMware vSphere ESXi 6.0 Hyper-V 2.0

関連ソフトウェア	説明	組合せ
Systemwalker Runbook Automation V15.1.3以降	運用作業を自動化するために必要です。 Microsoft Azureと連携する場合、必須です。	選択可
ServerView Resource Orchestrator V3.1.1以降	プライベートクラウド環境を構築・運用します。 ServerView Resource Orchestrator連携機能を利用する場合、Cloud Edition V3.1.1以降が必要です。	選択可

- Linuxは、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Hyper-VおよびMicrosoft Azureは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- VMware、VMwareロゴ、Virtual SMPおよびVMotionはVMware, Incの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Amazon Web Services およびAmazon Elastic Cloud Compute (Amazon EC2)はAmazon Web Services, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- 会社名、製品名等の固有名詞は各社の商号、商標または登録商標です。
- その他、本資料に記載されている会社名、システム名、製品名等には必ずしも商標表示 (TM・®) を付記しておりません。



shaping tomorrow with you